

資料4

2024年度 連盟活動方針

- ・連盟規約・規定の改正に取り組んだ。チーム代表者委員会での承認が必要だが、全加盟チームが全国フェスティバル予選会に参加可能になるよう提案し、全国フェスティバル予選会の活性化を目指す。さらに連盟理事の選出方法についても実態に合うものに改正した。
- ・昨年、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類への移行に伴い、大会運営はコロナ以前の通常運営とする。ただし、大会参加チームの理解を得ながら感染防止対策に努める。
- ・引き続き活性化プロジェクト提言を受け連盟役員やチーム代表者、アクティブラーダー等、様々な方々のニーズやアイデアの把握に努め、魅力ある大会連盟になる様反映させていく。具体には、アクションプランを提案し、組織の改革や主催大会等の規模や内容等について見直しを進めていく
- ・ボトムアップ型大会である「ソ・コラボフェスティバルin大阪」については、魅力ある取組として大きな意義があると捉え、より充実したものとなるよう検討を進める。
- ・指導普及活動の強化のためアクティブラーダー養成講習会を開催し新たな指導者育成に取り組む。
- ・連盟財政はここ数年、支出が収入を上回り基金勘定より繰入れをしている状況である。大きな要因として考えられるのが公営体育館の使用料である。参加チーム数と使用料のバランスがとれた大会運営を今後も目指していきたい。併せて、使用料の必要がない学校等の体育館の有効活用も検討していく。
- ・運営委員会等の会議は、オンラインを基本として実施し時間的・金銭的な負担軽減となっており継続していきたい。
- ・多くのソフトバレーボール愛好者・クラブに連盟の取組を広報するために、ホームページ、LINE公式アカウント、Facebookページにて情報発信に努める。

1 主催大会の工夫・活性化(競技部)

- ・府下市町村連盟・協会との連携強化と参加資格の柔軟化を進めることにより参加チーム増を目指し、大会不成立となる種別がなくなるよう努める。
- ・好評を得た「ソ・コラボフェスティバルin大阪」大会は、今年度もイベント性を踏まえた従来の大会とは違った運営方法の企画立案する。
- ・昨年度に引き続き、全国フェスティバル予選会の抽選会は、オンラインを活用し運営時間の短縮を図る。また、近隣市町村連盟・協会の協力を得て交流大会の開催を進める。

大会規模や大会役員の参集状況にもよるが、コート設営等の大会準備や大会運営に係る業務について参加チームへの協力要請を行い、大会時間の短縮を図る。

2 審判技術の向上(審判部)

- ・昨年、会場の都合でできなかった伝達講習会での審判実技講習を今年度は実施し、競技規則の改・修正点等を分かり易く解説する。
- ・大会開会式でのワンポイントレッスン、大会中の審判スキルクリニックコーナーを設けるなど、参加者からの疑問等に応える方策を考えていく。
- ・日本連盟からの競技規則(ルールブック)改定情報等について連盟ホームページ等に掲載し周知に努める。

3 情報提供と連盟への加盟推進(総務部)

- ・加盟チームへの諸案内、資料配信は郵送せずメールでの配信とし経費削減を図る。
- ・HPの充実を図り大阪府下のみならず全国・近畿のチームとの交流が出来る連盟主催大会の魅力ソフトバレー愛好チームに発信し、加盟チームの増加を図る。

4 加盟チームならびに役員の資質向上(指導普及部)

- ・アクティブラーダー研修会(更新研修)を実施する。2024年度も更新切れするリーダーが多いことから実施要項等の周知に努める。
- ・アクティブラーダー養成講習会を実施する。その際、近畿連盟との連携のもと実施する予定としており当該連盟からの支援を依頼する。
- ・連盟活性化プロジェクトチームにおいて提案された、連盟活性化や魅力ある組織活動、市町村連盟との連携の在り方等についての具体化に取り組む。とりわけ、市町村連盟への情報発信の仕組みを整える。

5 公益財団法人日本バレーボール協会『登録管理システム』の周知徹底(総務部)

- ・大阪府下のソフトバレー愛好チームや市町村組織に講習会・研修会や連盟ホームページを通じて、本連盟への加盟登録・大会・行事等の情報を容易に配信できる(公財)日本バレーボール協会登録管理システム(JVAMRS)の周知に努める。